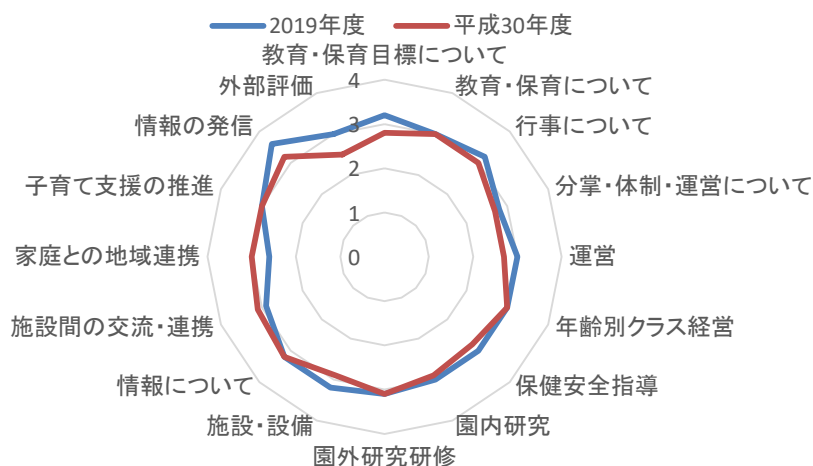


2019年度認定こども園 みどり幼稚園 自己点検・自己評価

	2019年度	平成30年度
教育・保育目標について	3.2	2.8
教育・保育について	3	3
行事について	3.2	3
分掌・体制・運営について	2.8	2.7
運営	3	2.7
年齢別クラス経営	3	3
保健安全指導	3	2.8
園内研究	3	2.9
園外研究研修	3.1	3.1
施設・設備	3.2	2.9
情報について	3.2	3.2
施設間の交流・連携	2.9	3.1
家庭との地域連携	2.6	3
子育て支援の推進	3	3
情報の発信	3.6	3.2
外部評価	3	2.5

グラフタイトル



総合評価

幼保連携型認定こども園に移行して4年目を迎えた。保育と教育のふたつを合わせ持った教育機関で就学前までに育ててほしい姿を追求しながら保育活動を行ってきた。子どもの主体性を大切にし、与える保育ではなく、子ども達自ら思いや意見などが言えるように配慮し、関わってきた。教育部門では今までの教育目標、教育方針を踏まえて年間計画を立て、園児達が様々な経験、体験を積み、集団生活の中で社会性を身に付けていくことが出来るように保育者同士が共通理解を持ち、環境設定に配慮して年齢に沿った保育活動を行った。異年齢交流や幼保小教育交流も定期的に行い、良い成果に繋がっている。10月から利用料の無償化に伴い、預かり保育も雇用時間により無償化対象になったので働く保護者も多くなり利用する園児も増加、子育て支援の役目も果たしている。また未就園児クラス(トライスクール)の保育も順調に行うことができた。保育部門では経験のある保育教諭が1、2歳児の保育計画を立て、基本的な生活習慣の樹立を目指し保育を行った。2号・3号認定の長時間保育利用園児の関わりは保育部門から教育部門へつながりを持ち、こども理解に大きく影響した。これからも教職員は園内研修(ふれあい全体研修)や園外研修に参加して自己研鑽し、改訂された新教育・保育要領に基づいて保育活動を工夫して行っていくことが望まれる。また地域と連携を深め、教職員が行事等にどの様に参加していくかが今後の課題である。